

金沢大学法学研究科 定期試験問題

授業科目名	法理学	2024年度：前期	
		定期試験期間内	
担当教員名	足立英彦	試験日・時間	7月26日(金)
			8:45 ~ 10:15

1. つぎの推論は妥当（論理的に正しい）か、真理表を使って説明せよ。妥当でない場合は反例も示せ。（各4点）

 - (a) $\neg A$ ゆえに $A \rightarrow B$
 - (b) $A \rightarrow B, B$ ゆえに A
2. つぎの推論は妥当か、タブローを使って説明せよ。妥当でない場合は反例も示せ。（各4点）

 - (a) $A \vee B, A \rightarrow C, B \rightarrow C$ ゆえに C
 - (b) A ゆえに $A \rightarrow B$
3. つぎの論理式は恒真か。タブローを使って説明せよ。（4点）

$((A \rightarrow B) \rightarrow A) \rightarrow A$
4. (a)~(d)の文を、それぞれ

 - 全称量化子と「ならば (\rightarrow)」を含む論理式と、
 - 存在量化子と「かつ (\wedge)」を含む論理式に翻訳し、
 - ベン図も書きなさい。

なお、「 \sim は法科大学院学生である」という述語を S、「 \sim は法理学を学んでいる」という述語を J とする。（各3点）

 - (a) すべての法科大学院学生は法理学を学んでいる。
 - (b) 法科大学院学生は誰も法理学を学んでいない。
 - (c) 法理学を学んでいない法科大学院学生がいる。
 - (d) 法理学を学んでいる法科大学院学生がいる。

5. つぎの文章は正しいか。正しいければ○を、正しくなければ×を答案用紙に書きなさい。×の場合は、何が誤っており、どう修正すれば正しくなるかも説明しなさい。(各2点)
- (a) 命題は、文の内容のうち、真理値をもつものである。
 - (b) 二つの論理式 A, B が論理的同値であれば、 A, B がどのような場合にもつねに同じ真理値を取る。
 - (c) 『 a は b に損害賠償を支払わなければならない、かつ、それを支払わないことも許されている』ゆえに『 b は a に感謝しなければならない』という推論は論理的には間違っている。
 - (d) 反例がなく、かつすべての前提が真である推論を健全な推論という。
 - (e) \vdash (ゆえに) は、命題論理の論理結合子である。
 - (f) 論理式の集合が整合的であるということは、どんな場合でも、その集合に含まれるすべての論理式が真になるということである。
 - (g) 「 A 、ゆえに B 」という推論が妥当ならば、「 A ならば B 」という命題は恒真である。
 - (h) 不作為の許可は作為の禁止を含意する。
 - (i) 不可能なことは義務づけられない。
 - (j) 作為が命じられており、かつ不作為も命じられていることを不自由と呼ぶ。
 - (k) 煙草を吸わないことが義務づけられていれば、「煙草を吸ったならば 100 万円を支払う」ことも義務づけられている。
 - (l) 言論の自由のない国（法令や判例で言論の自由が明確に否定されていると仮定する）では、国民は国に対して、政府を批判する言論をすることが禁止されている。
 - (m) 非整合的な世界は可能世界ではない。
 - (n) 殺人が禁止されている世界では、殺人をする者はいない。
 - (o) 「人を殺した者は 5 年以上の拘禁刑を義務づけられる」は無条件の一般規範である。
 - (p) グスタフ・ラートブルフによれば、法はまさに道徳の可能性にすぎず、そしてまたそれ故に不道徳の可能性でもある。
 - (q) 宗教を信じる自由がない国では、国は国民に対して、宗教を信じることを求める権利を有しており、かつ、宗教を信じないことを求める権利も有している。
 - (r) 法令の条文が定める義務の多くは撤回不可能な義務である。
 - (s) 学ばないことを禁止する法令がなければ、学ばないことは法的に許されている。

- (t) 物権は、特定の人に対するすべての人の自由権である。
- (u) 歴史上最初の憲法制定者にその憲法を定める権限を授ける規範をラートブルフ (Radbruch) は根本規範と呼んだ。
- (v) 憲法で国民の権利を定め、それを大幅に変更・廃止することを禁止することを制度的保障という。
- (w) 憲法は裁判所に裁判をする権限を裁判所に与えているが、この権限行使を義務づけているわけではない。
- (x) 最善の状況や行為を定めているが、その状況・行為が実現されない場合にどうすべきかを定めていない規範を原理と呼ぶ。
- (y) 立法者意思に基づく論証とは、現在の立法者の実際の意思を論拠とする論証である。
- (z) 私法において法の欠缺は例外的である。

6. 次の文章の空白を埋めなさい。(各1点)

- (a) 原子式の真理値の組み合わせにかかわらず常に真となる式を (1)、常に偽となる式を (2)、真と偽の両方の値を取りうる式を (3) と呼ぶ。
- (b) 命令(作為の義務)・禁止・自由は互いに (1) の関係にあり、不自由・作為許可・不作為許可は互いに (2) の関係にあり、命令は作為許可と不自由を、禁止は不作為許可と不自由を、自由は作為許可と不作為許可を (3) する。

7. つぎの語句を説明しなさい。(各2点)

- (a) 自由
- (b) 権限
- (c) 交換的正義
- (d) 偶然的な法解釈
- (e) 反法律的法形成

以上